



野網 義一 議員

町施設を利用し ドローン練習場を



ドローン練習場に（南部公園南側空地）

池田山はスカイスポーツのメッカと言われているのに、パラグライダーのタンデムの事故以来、上空を飛ぶ姿があまり見られなくなり、使用料収入も半減した。

今脚光を浴びているのがドローンで、写真撮影は勿論、測量や荷物の配達、災害現場の確認等で活用が期待されている。ところが、都会では練習が室内に限定され、屋外では練習できない。

池田町にドローンの練習場を作ってはどうか。候補地はバラ・ハンングライダーの山洞の着地場や南部公園の南側の空き地やテニスコートとその西側の広場で、駐車場もある。青少年研修施設も講義に利用できる。

町長

ドローンは非常に多面的な利用が期待され、愛好者が増えてきている。フライト協会の人たちとも連携し着地場の利活用を考えたい。南部公園周辺も練習場に提供し、ドローン研修で池田温泉も利用していただければいいプランだ。

加齢性難聴者補聴器購入に補助を

加齢性難聴者が増えてきており70歳以上では二人に一人が難聴者だと言われている。難聴になれば日常生活が不便になるし、最近では鬱や認知症の危険因子になることも指摘されている。

補聴器の購入補助は障害者手帳を持つ高度・重度難聴者にはあるが、中等度以下の難聴者に対する制度はない。

補聴器が高すぎて購入出来ない人が多い。補聴器購入に補助金制度を創設されたい。

町長

介護保険でも眼鏡等と同様に給付や補助の対象になっていないのが現実。補聴器を購入された場合に医療費の控除として、基礎控除の10万円を引いて所得税が還付される場合がある。県内の実施状況を確認しながら検討する。

防災ラジオの無償貸与と

購入の対象の範囲は

町長

防災ラジオが各世帯に無償で貸与されるがどれくらいの規模か。親と子が別棟に住んでおり、もう一台実費負担してもほしいという声がある。事業所はどうなるのか。外国人やアパートはどうか。耳の不自由な人に対する文字表示機能付ラジオはどれくらい見込んでいるか。配布はどのようにするのか。

規模は別表参照。離れなどに必要な人・事業者などは購入でお願いしたい。アパートは管理人がおられれば貸与。外国人は管理する会社で購入を。文字表示機能付ラジオは70〜100台見込んでいる。配布については、各集落公民館で地区役員の立ち会いで行う。

防災ラジオ配備計画

親局	池田町役場
配信局	池田山
8046台	無償配布世帯
114台	町施設、地区公民館、交番、高校等
21台	民間の保育園、介護施設、老健施設
419台	予備・購入用
8600台	文字表示機能も含む